

## ■ 編集委員

海老原康博（編集委員長）

秋岡 祐子 片桐 岳信 小林 国彦 千田みゆき 名越 澄子  
堀江公仁子 町田 早苗 Chad L Godfrey（五十音順）

## ■ 編集後記

令和5年度もう直ぐ終わろうとしています。皆様にとってこの1年を振り返った時に何を思い浮かべますか？個人的な出来事もあるかと思いますが、国外では不安定な世界情勢や新しいアメリカ大統領の誕生など、国内では物価高や少数与党による政権運営があります。我々の身近なところでは、「働き方改革」が普及したことでしょうか？色々なことが変化していく時なのかもしれません。

さて、埼玉医科大学雑誌51巻2号をお届けします。

本号には久しぶりに総説として古賀弘志先生による「皮膚がん早期発見のためのダーモスコピー検査」が掲載されました。皮膚がんのスクリーニング検査としての奥深いダーモスコピー検査をわかりやすく解説しています。皮膚科以外の臨床科の先生にも一読の価値があると思います。また、症例報告として飯島洋介先生らが「下顎エナメル上皮腫切除後にインプラントを用いて咬合再建し長期に安定が得られた1例」を報告しています。再建骨へのインプラント応用により審美的および機能的に良好な咬合再建ができた興味深い症例です。

第5回「オール埼玉医大研究の日」の開催報告を掲載しています。今回は学部学生や大学院生をはじめ、多くの研究者の発表や特別講演として川野雅章先生の講演があり、最後に懇親会も復活して開催され、夜遅くまで活発な議論が行われていました。

学術集会報告として(1)宮田瑠珂先生による「当事者が抱える課題・悩みそして医療に求めること」と(2)酒向正春先生による「攻めのリハビリテーション治療とその先へ」が掲載されています。

そのほか、学内グラント報告11編と別項として西村博明先生による学位論文「Wntシグナル伝達体Dvl抑制による上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害薬感受性および耐性肺腺癌細胞株の増殖・浸潤能への影響」が掲載されています。

埼玉医科大学で多種多彩な研究活動が行われているのがわかると思います。

最後に私事ですが、この3月いっばいを持ちまして編集委員長を退任することになりました。埼玉医科大学では研究活動が活発化しているのですが、ここ数年、埼玉医科大学雑誌への投稿数が減少しています。大学で行われた研究発表の場として埼玉医科大学雑誌が選ばれるようなシステムができると思います。いつもの繰り返しになりますが、埼玉医科大学雑誌はJ-SAGEにも公開されていますので、世界中の研究者が閲覧することができます。新しい編集委員長には、投稿数増加に向けて埼玉医科大学雑誌が衣替えできるように編集委員会を掲げて頑張ってくださいと思います。

皆様の埼玉医科大学雑誌に対するこれまでの支援に感謝するとともに、これからの埼玉医科大学雑誌の発展を祈りたいと思います。

(海老原康博)

## 埼玉医科大学雑誌

<https://smswww.saitama-med.ac.jp/kyoudou/igakkai/jsms/>

第51巻 第2号

編集責任者

海老原 康博

令和7年3月16日 印刷

令和7年3月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

製作

レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町809番地の5 電話(082)844-7500 <https://letterpress.co.jp/>